

冬十月一日、

十四日、人定いのとき（夜十時頃）に大地震があつた。国中の男も女も叫び合い逃げまどつた。山は崩れ河は溢れた。諸国の郡の官舎や百姓の家屋・倉庫、社寺の破壊されたものは数知れず、人畜の被害は多大であつた。伊予いよの道後どうご温泉も、埋うずもれて湯が出なくなつた。土佐国では田畑五十余万頃（約一千町歩）がうずまって海となつた。古老は、「このような地震は、かつて無かつたことだ」といつた。この夕、鼓の鳴るような音が、東方で聞こえた。「伊豆島いずのしま（伊豆大島か）の西と北の二面がひとりでに三百丈あまり広がり、もう一つの島になつた。鼓の音のように聞こえたのは、神がこの島をお造りになる響きだつたのだ」という人があつた。